

ベジタリアンの種類

ベジタリアン (vegetarian)という言葉は「健全な、新鮮な、元気のある」という意味のラテン語 ‘vegetus’ に由来する、野菜・果物・豆類・ナッツなど植物性の食材を主体とした食事法のこと。

狭義のベジタリアン	
ヴィーガン vegan	完全菜食やピュア・ベジタリアン(pure vegetarian)とも言う。卵・乳製品・ハチミツ・肉・魚など動物性の食品は含まれない。
フルータリアン fruitarian	主に思想的な理由で根菜や葉野菜なども取らず、果実・種子・ナッツのみを取る食事法。
ホールフード菜食 plant-based whole food	小麦粉よりも全粒粉を使うなど、栄養素の豊富な無精製の植物性食品を勧める食事法。
広義のベジタリアン	
ラクト・オボ・ベジタリアン lacto-ovo vegetarian	卵と乳製品を含めた菜食。
オボ・ベジタリアン ovo vegetarian	卵を含めた菜食。
ラクト・ベジタリアン lacto vegetarian	乳製品を含めた菜食。
部分的なベジタリアン	
ペスキタリアン pescetarian	菜食に魚介類を加えた食事法。ペスコ・ベジタリアン(pesco-vegetarian)とも言うが、ベジタリアンには含まれない。
セミ・ベジタリアン semi-vegetarian	時々菜食を取り入れる食習慣。
リデュースタリアン reducetarian	肉を減らして植物性食品も取り入れた食事法。

日本語	http://www.ethicalvegan.jp/vegetarianism/	http://www.jpvs.org/v-info/f-vinfo.htm
英語	—	—
その他言語	—	—

広島を支える、チェコとドイツ

原爆ドーム(旧広島県産業奨励館)を設計したのはチェコ人

広島県物産陳列館は、日清戦争を契機に発達した県内製品の販路を開拓する拠点として、1915年に建築された。その後1933年に広島県産業奨励館に改称、1944年3月に産業奨励館としての業務が廃止されて統制会社の事務所へと変わり、被爆した。

設計者であるチェコ人建築家ヤン・レツル(Jan LETZEL 1880-1925)は、宮城県松島の松島パークホテルも設計しており、当時の広島県知事がこれを見ていたことが縁となったようだ。

彼は、アール・ヌーヴォーやセセッション(既存の芸術から分離し、新たな表現を探そうという芸術運動)の影響を受けており、日本で他にも、聖心女子学院、上智大学、多くの住宅を手がけた。しかし、作品は震災・戦災・火災などでことごとく失われ、レツル自身も関東大震災に被災し失意の中帰国、1925年にプラハで没している。

(arch-hiroshimaより <http://arch-hiroshima.info/arch/hiroshima/dome.html>)



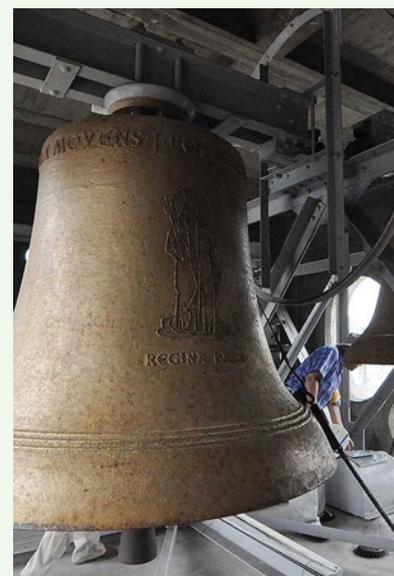
Jan LETZEL
ヤン・レツル
(Wikipediaより)

世界平和記念聖堂の鐘は、ドイツから寄贈された

カトリック幟町教会の主任司祭として被爆し、生き残ったドイツ人神父フーゴー・ラサールの熱意によってローマ法王をはじめとするキリスト教世界の支援のもと「世界平和記念聖堂」として再建された。

特徴の一つとして、ラサール神父の母国であるドイツからの寄贈品が多い。鐘、玄関扉、ステンドグラス、パイプオルガンのほか、洗礼盤も寄贈品だ。資材高騰や予算不足に悩まされた本作ではこれら寄贈品なくして建物が成り立たなかった。このほかにアメリカからの寄付金も大きかった。

(arch-hiroshimaより http://arch-hiroshima.info/arch/hiroshima/p_cathedral.html)



鐘
(ドイツ ボーフム
市の企業)

日本語	上記参照
英語	—
その他言語	—

ドイツと似島 意外な関係

日本で初めてドイツ菓子・バウムクーヘンが焼かれた地、似島

日本でバウムクーヘンを普及させたドイツ人カール・ユーハイムは、1908年からドイツの租借地であった中国のチンタオ(青島)で、ドイツ人相手に菓子・喫茶の店を営んでいた。日本が第一次世界大戦でドイツに宣戦布告し、1914年にチンタオは陥落。彼は結婚したばかりだったが、多くの捕虜と一緒に日本へ連行され、3年後に大阪の収容所から似島に移された。

1918年11月ドイツの降伏により、捕虜達にはより一層の自由が与えられるようになり、ユーハイムは、捕虜収容所でバウムクーヘンを焼いていた。彼が最も活躍したのが、1919年から始まった広島県物産陳列館(その後、広島県産業奨励館に改称。現在の原爆ドーム)での捕虜製作品展覧会だった。初日の入場者は7,400人を数え、その後も大盛況だったという。当時の記録によると、工芸品、絵画、サンドウィッチやコーヒーなど、当時としては、まだまだ珍しいものが並び、多くの市民をヨーロッパに行った気分させたとある。

中でも菓子は、教師の初任給が20円だった当時、初日だけで150円を売り上げ、一番の人気商品だった。当日の様子を中国新聞が紹介しており、これが日本人とバウムクーヘンが最初に出会った出来事とされている。

1920年に、ユーハイムは捕虜生活から開放されたが、そのまま日本に残り、横浜に自分の菓子店を開店した。ドイツ、中国、日本と波乱万丈の人生を過ごしたユーハイムが、似島の地に残したバウムクーヘンは今や全国に広がっている。

(広島市HPより)



Karl Joseph Wilhelm
Juchheim
カール・ユーハイム
(Wikipediaより)

日本語	http://www.city.hiroshima.lg.jp/www/contents/1189154371205/index.html
英語	—
その他言語	—

フランスと宮島のつながり

宮島とモン・サン=ミッシェル(フランス)は姉妹都市

日本とフランスの国交が開始されてから150周年を迎えた2008年は、「日仏観光交流年」と位置づけられ、さまざまな観光キャンペーンが展開された。そんな中、フランス政府観光局と日本政府観光局が共同で作成したポスターに、フランスの世界遺産モン・サン=ミッシェルと厳島神社の大鳥居が起用されたことがきっかけとなり、2009年に観光友好都市提携を結ぶ。

モン・サン=ミッシェルと宮島は、海に浮かぶ世界遺産であること、信仰の聖地として1000年以上の歴史があること、それぞれの国を代表する観光地であることなど、大きな共通点がある。

モン・サン=ミッシェルは、西海岸サン・マロ湾上に浮かぶ小島、及びその上にそびえる修道院。海岸線から1キロほど沖に突き出た岩山で、フランスでもっとも有名なカトリックの巡礼地の一つだ。干満の差の激しい湾にあり、時によって海に浮かび、時によって干潟にたたずむ。堤防からラヴァンセ門をくぐり、修道院までの参道が魅力。

(Clair Inbound Library HPより <http://clair-inbound.net/miyajima/>)

(宮島観光公式サイトHPより http://miyajima-wch.jp/jp/mont_saint_michel/)



きっかけとなった、
国交150周年のフランスと日本の共同ポスター

日本語	上記参照
英語	—
その他言語	—

便利なパス

便利なパスいろいろ

	料金	めいぷる～ぷ	宮島フェリー	路面電車	その他
広島ピースパス (電車バス 1日乗車券)	大人 700円 小児 350円	○	×	○	車内販売 なし ※1
電車1日乗車券 (路面電車全線) ※2	大人 600円 小人 300円	×	×	○	車内販売 あり
1日乗車乗船券 ※2 ※3	大人 840円 小人 420円	×	○ (宮島松大汽船)	○	車内販売 あり
市内循環バス (めいぷる～ぷ) 1日乗車券 ※2	大人 400円 小人 200円	○	×	×	車内販売 あり

※1 広島ピースパス購入場所
電車案内所、交通案内所、スワロートラベル

※2 広島おもてなしパス(HOP)付。(広島市内・廿日市市内の観光施設や飲食店で割引等が受けられる優待券。取扱いのある旅館やホテルでも購入できる。ぴーすくる1日パスにも付帯)

※3 宮島ロープウェイ割引あり
(大人往復 通常1,800円→1,350円 小児往復 通常900円→700円)

広島市HP、広島電鉄株式会社HPより

日本語 上記参照

英語 -

その他言語 -